

平成17年度病害虫発生予察 予報第1号

平成17年4月15日
長崎県病害虫防除所長

向こう1か月間における主な病害虫の発生動向は次のように予想されます。

【気象（平成17年4月15日発表 1か月予報 福岡管区气象台）】

九州北部地方では、天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ晴れる日が多いでしょう。

向こう1か月の気温は平年並、降水量は平年並、日照時間は平年並が多いでしょう。

週別の気温は、1週目、2週目、3～4週目はいずれも平年並でしょう。

要素別確率 単位（％）

要素	低い (少ない)	平年並	高い (多い)
気温	30	50	20
降水量	30	40	30
日照時間	20	40	40

* 予報対象地域：九州北部地域

【予報の概要】

農作物名	病害虫名	発生程度	
		現況	予想
早期水稲	イネミズゾウムシ	-	やや少
水稲共通	縞葉枯病（防除情報第1号）	-	やや多
麦類	うどんこ病 赤かび病 アブラムシ類	少 並 並	少 並 並
ばれいしょ	疫病 アブラムシ類	並 やや少	並 やや少
トマト	黄化葉巻病 灰色かび病 葉かび病 コナジラミ類	やや多 やや多 やや少 並	やや多 やや多 やや少 並
いちご	うどんこ病 灰色かび病 アブラムシ類 ハダニ類	並 並 少 多	並 並 少 多
かんきつ	そうか病 かいよう病 ミカンハダニ	並(旧葉) やや多(旧葉) やや少	並 やや多 やや少
なし	赤星病 黒星病 アブラムシ類	並 並 並	並 並 並

農作物名	病 害 虫 名	発 生 程 度	
		現 況	予 想
果樹全般	クワゴマダラヒトリ (防除情報第2号)	-	やや多
茶	カンザワハダニ クワシロカイガラムシ (防除情報第3号)	並 やや多	並 やや多

【早期水稲】 ()内は平年値 [以下同じ]

1. イネミズゾウムシ

- 1) 予報内容
発生程度 やや少
- 2) 予報の根拠
昨年は平年よりやや少ない発生であった。

【水稲共通】

1. 縞葉枯病

4月15日付け平成17年度病害虫発生予察 防除情報第1号による。

【麦 類】

1. うどんこ病

- 1) 予報内容
発生程度 少
- 2) 予報の根拠
(1) 4月上旬の巡回調査の結果、発生を認めなかった(大麦・裸麦：発生を認めない、小麦：発病茎率2.4%)。
(2) 4月3半旬の県予察圃場(無防除、諫早市)調査の結果、発生を認めなかった(大麦・裸麦：発生を認めない、小麦：発病茎率1.0%)。

2. 赤かび病

- 1) 予報内容
発生程度 並
- 2) 予報の根拠
(1) 4月上旬の巡回調査の結果、発生を認めなかった(発生を認めない)。
(2) 4月3半旬の県予察圃場(無防除、諫早市)調査の結果、発生を認めなかった(発生を認めない)。
- 3) 防除上注意すべき事項
(1) 出穂期以降、気温が高く降雨が続くと多発するので今後の気象の推移に注意し防除を徹底する。
(2) 防除薬剤は予防効果主体なので発生を認めてからの防除では効果が劣るため予防散布に努める。

3. アブラムシ類

- 1) 予報内容
発生程度 並
- 2) 予報の根拠
(1) 4月上旬の巡回調査の結果、
大麦：寄生茎率2.0%(5.2%)、1茎当たり虫数は1.1頭(0.2頭)、発生圃場数は9筆中5筆であった。

- 裸麦：寄生茎率0.7%（12.0%）、1茎当たり虫数は0.1頭（0.9頭）、発生圃場数は6筆中3筆であった。
- 小麦：寄生茎率6.4%（3.9%）、1茎当たり虫は0.1頭（0.2頭）、発生圃場数は15筆中7筆であった。
- (2) 4月3半旬の県予察圃場（無防除、諫早市）調査の結果、
- 大麦：寄生茎率8.5%（4.2%）、1茎当たり虫数は0.2頭（0.1頭）であった。
- 裸麦：寄生茎率35.0%（7.8%）、1茎当たり虫数は2.4頭（0.3頭）であった。
- 小麦：寄生茎率12.0%（3.9%）、1茎当たり虫数は0.2頭（0.1頭）であった。

【ばれいしょ】

1. 疫病

1) 予報内容

発生程度 並

2) 予報の根拠

4月上旬の巡回調査の結果、発生を認めなかった（発病株率0.0%）。

2. アブラムシ類

1) 予報内容

発生程度 やや少

2) 予報の根拠

4月上旬の巡回調査の結果、寄生株率は5.3%（9.8%）、発生圃場数は24筆中6筆であった。

【トマト】

1. 黄化葉巻病

1) 予報内容

発生程度 やや多（前年比 やや少）

2) 予報の根拠

4月上旬の巡回調査の結果、発病株率は0.1%、発生圃場数は12筆中3筆であった。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 発病株は伝染源となるので、早期に抜き取り適正に処分する。

(2) 本病はシルバーリーフコナジラミにより媒介されるので、圃場密度の低下を図る。また、収穫終了後は、媒介虫の分散防止につとめる。

2. 灰色かび病

1) 予報内容

発生程度 やや多

2) 予報の根拠

4月上旬の巡回調査の結果、発病果率は1.6%（0.7%）、発生圃場数は12筆中6筆で、一部多発圃場があった。

3) 防除上注意すべき事項

ハウス内の換気をよくし、湿度低下に努める。

3. 葉かび病

1) 予報内容

発生程度 やや少

2) 予報の根拠

4月上旬の巡回調査の結果、発病株率は0.9%（3.4%）、発生圃場数は12筆中2筆であった。

4. コナジラミ類 (シルバーコナジラミ、ワシコナジラミ)

1) 予報内容

発生程度 並

2) 予報の根拠

4月上旬の巡回調査の結果、寄生株率は3.2%(2.4%)、発生圃場数は12筆中4筆であった。

【いちご】

1. うどんこ病

1) 予報内容

発生程度 並

2) 予報の根拠

4月上旬の巡回調査の結果、葉、葉柄では発生を認めず(発病株率1.4%)、果実では発病果率0.3%(0.5%)、発生圃場数は27筆中4筆であった。

2. 灰色かび病

1) 予報内容

発生程度 並

2) 予報の根拠

4月上旬の巡回調査の結果、発病果率0.1%(0.2%)、発生圃場数は27筆中7筆であった。

3. アブラムシ類

1) 予報内容

発生程度 少

2) 予報の根拠

4月上旬の巡回調査の結果、発生を認めなかった(寄生株率は2.6%)。

4. ハダニ類

1) 予報内容

発生程度 多

2) 予報の根拠

4月上旬の巡回調査の結果、寄生株率は25.1%(8.3%)、発生圃場数は27筆中18筆であった。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 発生初期の防除を徹底する。

(2) 薬剤のかけむらがあると防除効果が落ちるので、葉裏まで十分に付着するように散布する。

(3) 薬剤感受性が低下しやすいので、同一系統の薬剤は連用しない。

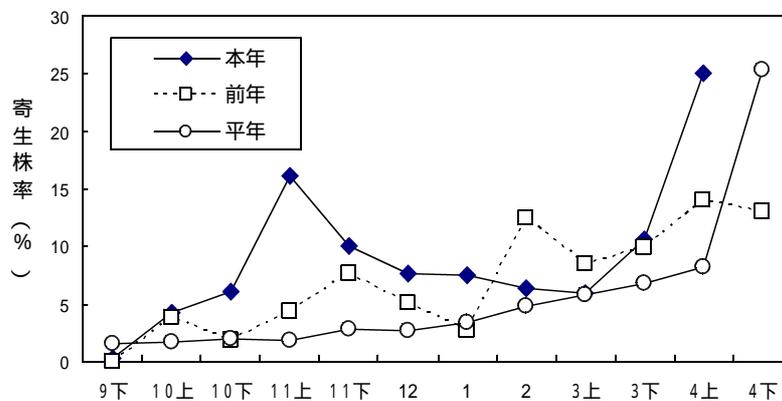


図 ハダニ類の寄生株率の推移(巡回調査)

月旬

【かんきつ】

1. そうか病

1) 予報内容

発生程度 並

2) 予報の根拠

3月下旬の巡回調査の結果、旧葉での発生を認めなかった（発病葉率 0.0%）。

2. かいよう病

1) 予報内容

発生程度 やや多

2) 予報の根拠

3月下旬の巡回調査の結果、旧葉での発病葉率は0.4%であった（0.2%）。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 本病に対する耐病性が弱い品種で旧葉に病斑が多い園では、新梢への感染を防ぐため展葉初期に薬剤散布を行う。

(2) 薬剤散布に当たっては樹勢に留意し、無機銅水和剤を散布する場合は薬害軽減のため炭酸カルシウムを加用する。

(3) ボルドー液は温州みかん以外のかんきつには登録がないので注意する。

3. ミカンハダニ

1) 予報内容

発生程度 やや少

2) 予報の根拠

4月上旬の巡回調査の結果、寄生葉率は0.5%（2.8%）、発生圃場数は39筆中5筆であった。

【なし】

1. 赤星病

1) 予報内容

発生程度 並

2) 予報の根拠

(1) 4月上旬の巡回調査の結果、発生を認めなかった（発病葉率 0.0%）。

(2) 県予察圃場では、これまでに初発を確認していない（平年初発時期 4月中旬）。

2. 黒星病

1) 予報内容

発生程度 並

2) 予報の根拠

(1) 4月上旬の巡回調査の結果、発生を認めなかった（発病葉率 0.0%）。

(2) 県予察圃場では、これまでに初発を確認していない。（平年初発時期日 5月中旬）

3. アブラムシ類

1) 予報内容

発生程度 並

2) 予報の根拠

4月上旬の巡回調査の結果、寄生新梢率0.6%（0.5%）、発生圃場数は12筆中4筆であった。

【果樹共通】

クワゴマダラヒトリ

4月15日付け平成17年度病害虫発生予察 防除情報第2号による。

【 茶 】

1. カンザワハダニ

1) 予報内容

発生程度 並

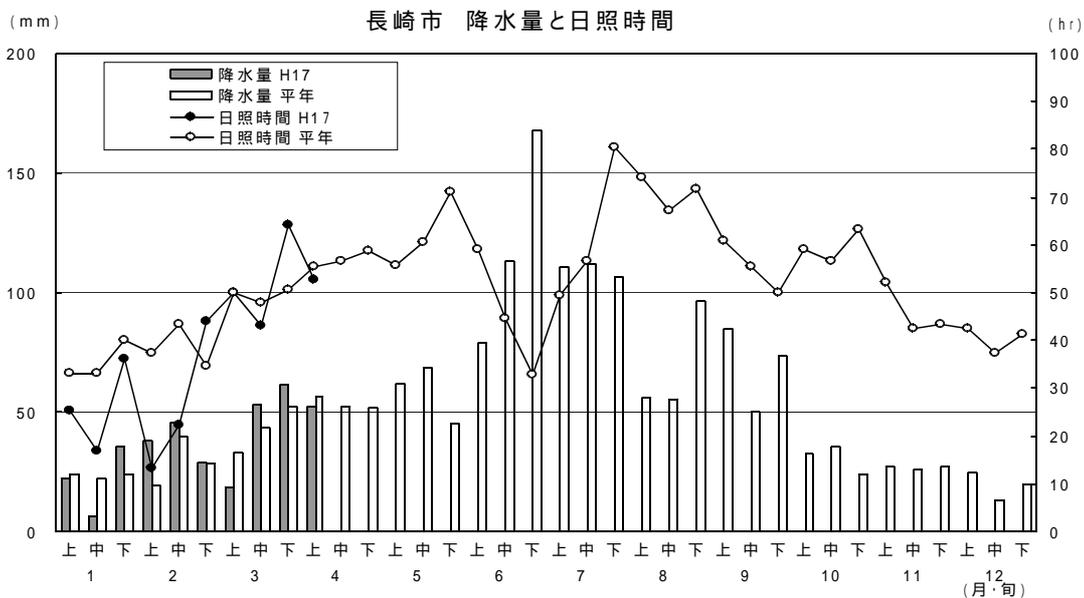
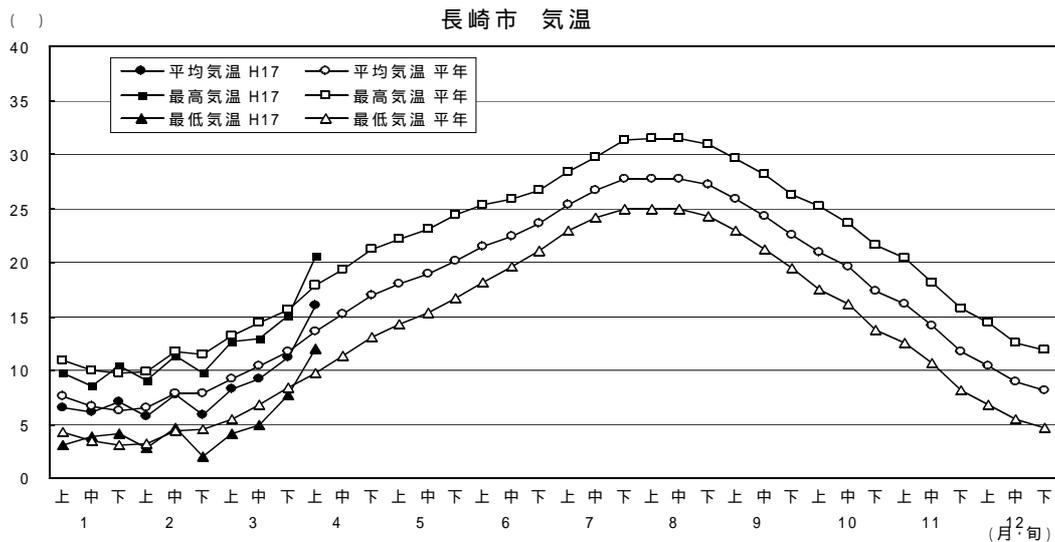
2) 予報の根拠

4月上旬の巡回調査の結果、寄葉率は2.4%（平年1.8%）、発生圃場数は16筆中8筆だった。

2. クワシロカイガラムシ

4月15日付け平成17年度病害虫発生予察 防除情報第3号による。

平成17年の気象経過（長崎海洋気象台）



「農薬使用基準の遵守について」

農薬を使用する際には、必ず農薬のラベルをよく読み、使用基準（適用作物、適用病害虫、使用濃度、使用量、使用時期、総使用回数）及び使用上の注意事項を守って、適正に使いましょう。